

<全体分析>

試験時間 理科2科目で100分

解答形式(医学部選択問題 1、2、3)

記述・論述および記号選択

分量・難易 (前年比較) (医学部選択問題 1、2、3)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

各大問の難易度は大きな変化はないが、論述量が大きく増加(400→810字)したため、総合的に判断すると前年より全体的な難易度は高くなったと思われる。

※2022年度医学部選択問題との比較

出題の特徴や昨年との変更点(医学部選択問題 1、2、3)

記述・論述が中心であり、50～160字程度の論述がある。

その他トピックス(医学部選択問題 1、2、3)

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述 論述 選択	免疫 遺伝子	生物 生物基礎	問5 サンガー法では新生鎖にジデオキシリボースが結合するとそれ以降ヌクレオチドが結合できず、異なる長さのヌクレオチド鎖ができることを利用して塩基配列を決定する。	標準
2	記述 論述 選択	生殖・発生 遺伝子	生物	問3 ②原核生物はスプライシングがおこらず、真核生物はスプライシングがおこることを記述する。	標準
3	記述 論述 選択	体内環境 代謝	生物 生物基礎	問4 酵素Aは肝臓ではグルコキナーゼであり、骨格筋ではヘキソキナーゼである。グルコースとの親和性の違いに着目する。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書レベルの知識を確実に身につけ、標準的な問題を解いておこう。
- ・100字程度の字数の多い論述問題も出題されるので、丁寧に説明する論述の練習をしておこう。
- ・考察問題にも慣れておこう。
- ・過去問、特にここ5年間の研究を十分にしておこう。
- ・最近の生物学のトピックスにも注意しておこう。